

シA  
3325  
2003  
(114)

# 「地域主義」と南北問題

—戦後日本のアジア太平洋経済外交政策—

2003年

筑波大学大学院国際政治経済学研究科

高橋 和宏

寄贈  
高橋和宏氏

04010791

## 目次

序章 分析課題と研究視角	1
第一節 分析課題	1
第二節 研究視座	5
第三節 「地域主義」と南北問題	12
第四節 本論文の構成	17

### 第一部

第一章 1950年代の経済貿易政策と東南アジア - 東南アジア経済外交政策の転換点	21
第一節 はじめに	21
第二節 経済貿易政策の基本方針の確定と東南アジアの位置付け	22
第三節 貿易政策の転換点 - 経済審議庁のイニシアティブ -	27
第四節 1953年の国際収支危機と東南アジアの位置づけ	33
第五節 経済政策と外交政策の連結 - 東南アジア経済開発構想の展開と挫折 -	44
第六節 1950年代後半の経済情勢と「東南アジア経済開発基金構想」	60
小括	68

### 第二部

第二章 池田内閣の経済貿易政策と東南アジア経済外交	71
第一節 はじめに	71
第二節 池田内閣の経済貿易政策	71
第三節 池田内閣の経済外交 - 「先進国入り」外交の意味 -	78
第四節 池田内閣期の東南アジア経済外交	88
小括	102
第三章 池田内閣期のオーストラリア経済外交 - 「フロンティア」の発見	104
第一節 はじめに	104
第二節 日豪関係の新展開 - 日豪通商協定改定交渉 -	105
第三節 「西太平洋5カ国首脳会談構想」	116
第四節 池田のアジア大洋州諸国訪問 - 「日豪新時代」演出の挫折 -	120
小括	130
第四章 南北問題と東南アジア政策の転換点 - UNCTADの衝撃	132
第一節 はじめに	132
第二節 池田内閣の援助政策 - 情熱と実態の乖離 -	133
第三節 第1回 UNCTADへの準備作業 - 省庁間の思惑の交錯	138
第四節 UNCTADの衝撃	149
第五節 南北問題と東南アジア政策の転換点	160
小括	164

### 第三部

第五章 佐藤政権の登場と東南アジア外交の再検討 - 「中進国」と「経済大国」との狭間 -	167
第一節 はじめに	167
第二節 「安定経済成長路線」の意味	167
第三節 ジョンソン提案のインパクト	170
第四節 大蔵省の財政方針転換と東南アジア経済政策の転換	185
小括	189
第六章 東南アジアにおける地域主義の勃興と日本外交	191
第一節 はじめに	191
第二節 アジア開発銀行	192
第三節 アジア外相会議の起源と日本の対応 - 日韓豪の思惑交錯	206
第四節 東南アジア開発閣僚会議 - 東南アジア経済開発構想の基軸 -	215
第五節 アジア外相会議への対応	241
第六節 東南アジア農業開発会議	246
小括	256
第七章 アジア太平洋経済秩序構想の展開と停滞	258
第一節 はじめに	258
第二節 日豪両国の再接近	259
第三節 三木構想の行方	269
第四節 日米関係とアジア太平洋圏構想	282
第五節 アジア太平洋経済秩序構想の停滞	288
小括	307
終章 戦後日本のアジア太平洋経済外交	311
第一節 まとめ	311
第二節 1960年代におけるアジア太平洋経済外交の意味	315
第三節 「中進国・日本」の経済と外交	317
第四節 アジアの冷戦とアジア太平洋経済外交	320
参考文献リスト	324

### グラフ・表

グラフ 2-1 1960年代の外貨準備高の推移	74
グラフ 2-2 1960年代の輸出と輸入	75
表 2-1 1960年代の国際収支の動向	75
グラフ 3-1 日豪貿易の推移 (1957-1970)	108
グラフ 4-1 1960年代における援助額の推移	135